

2025 年度 傾斜的研究費（全学分）若手研究者独立基盤形成支援 研究報告書

【研究費区分】：若手研究者独立基盤形成支援

【所属】：人間健康科学研究科看護科学域

【氏名】：呉 珠響

【氏名フリガナ】：オウ チュヒャン

【職】：准教授

【研究課題名】：定住コリアン高齢者の社会的孤立と支援方法の検討

【研究実績の概要（400 字程度で記入。図，グラフ等の使用も可。）】

- ・日本では外国にルーツをもつ人々の中でも定住コリアンの高齢化が進み、社会的孤立のリスクが高いことが指摘されている。本研究では、定住コリアン高齢者の社会的孤立の特徴と関連要因、孤立予防の支援方法を明らかにすることを目的としている。当該年度は、その基盤整備として社会的孤立予防に関する国内外の介入研究を対象にシステマティックレビューを実施し、心理社会的支援、身体活動、地域ネットワーク支援など多様なアプローチの効果を整理した。これらの知見は、定住コリアン高齢者の特性に応じて社会的孤立を予防する支援の方向性を検討するための基礎資料となった。
- ・2026 年度に予定しているインタビュー調査に向け、共同研究者や研究協力機関との打ち合わせ、倫理審査の申請など、調査実施に必要な準備を進めた。

【本支援を用いた研究基盤整備の達成状況について】

本支援により、研究の進捗報告や新たな知見の収集を目的とした国際学会参加が実現し、国内外の研究者との交流や知見の深化につながった。また、今後予定しているインタビュー調査および質問紙調査に備え、定性データを分析するための分析ソフトや、定量データの統計解析に用いる統計分析ソフトを導入し、収集データを適切に処理できる体制を整えた。さらに、研究活動を効率的に進めるためのノート PC や文献整理用のブックスキャナを整備し、資料管理の効率化が図られた。加えて、研究協力者や関係団体とのオンライン会議を円滑に行うための環境も強化され、研究遂行に必要な連携体制が向上した。これらの整備により、調査準備から分析、成果の公開に至るまでの一連の研究活動を安定的かつ効果的に進めるための基盤が充実した。

【本支援を用いた具体的な研究グループの形成について】

今年度は、共同研究者との間で今後の研究実施に向けた準備や進め方について意見交換を行い、研究体制の方向性を共有する機会を持った。また、今年度実施した文献整理や関連研究の検討では、分析に関わる検討過程で共同研究者から専門的な視点を踏まえた助言を得るなど、研究の質を高めるための協働が進んだ。さらに、研究協力機関や関係団体との関係構築にも取り組み、研究対象者に関わる団体や支援機関と面会や情報交換を行うことで、研究の趣旨や今後の調査計画を共有し、協力体制の基盤を整えることができた。これらの取り組みにより、今後の調査を円滑に進めるためのネットワークが形成され、研究グループとしての協働環境が整備された。